取扱説明書

JANOME
HIGH QUALITY SEWING

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味		
	⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⊘	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の原因になります。

禁止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～ 35℃です。
禁止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
禁止	フットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
禁止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
禁止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
禁止	ミシンの通風口はふさがないでください。

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

禁止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
注意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
必ず実行	針および押えは、確実に固定してください。 また、押えは、ぬいに合ったものをご使用ください。
必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・押え、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板、ランプを交換するとき （ランプは、冷えてから交換してください。）
必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

おとり扱いについてのお願い ____ 2
●各部の名まえ ____ 3
●補助テーブル ____ 4
●標準付属品 ____ 4

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方 ____ 5
●速さの調節のし方 ____ 5
●照明ランプ ____ 5
●返しぬいレバー ____ 6
●押えのとりかえ方 ____ 6
●押え上げ ____ 6
●糸調子の合わせ方 ____ 7
●下糸の準備をしましょう ____ 8
★ボビンをとり出します ____ 8
★ボビンに糸を巻きます ____ 8・9
★ボビンをかまにセットします ____ 9
●上糸の準備をしましょう ____ 10
★上糸を掛けます ____ 10
●糸通しの使い方 ____ 11
●下糸を引きあげるには ____ 12
●布に適した糸や針を選ぶ目安 ____ 12
●模様選択ダイヤル ____ 13
●送りダイヤル（ぬい目あらさ調節） ____ 13
★スーパー模様の形の整え方 ____ 13

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい ____ 14
★ぬいはじめ ____ 14
★厚手の布端のぬいはじめ ____ 14
★ぬい方向をかえるには ____ 14
★ぬいおわりと糸の切り方 ____ 14
★針板ガイドラインの利用 ____ 14
●ジグザグぬい ____ 15
● かがりぬい ____ 16
★トリコットぬい裁ち目かがり ____ 16
★かがりぬいステッチ ____ 16
●くけぬい（まつりぬい） ____ 17
●三重ぬい ____ 17
★直線三重ぬい ____ 17
★ジグザグ三重ぬい ____ 17
●ボタンホール ____ 18
●芯入りボタンホール ____ 18
●ファスナーつけ ____ 19・20

応用ぬいいろいろ

●キルティング ____ 21
●ピンタック ____ 21
●アップリケ ____ 21
●パッチワーク ____ 22
●スモッキング ____ 22
●シェルタック ____ 22

押えホルダー・針のとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方 ____ 23
●針のとりかえ方 ____ 23

ミシンのお手入れと調整

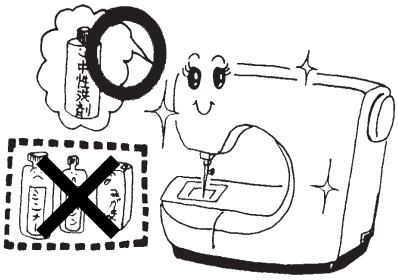
●ミシンのお手入れ ____ 24
★かまの掃除 ____ 24
★かまの分解 ____ 24
★かまと送り歯の掃除 ____ 24
★かまの組つけ ____ 24
●ミシンの調子が悪いときの直し方 ____ 25
別売品のご紹介 ____ 26

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

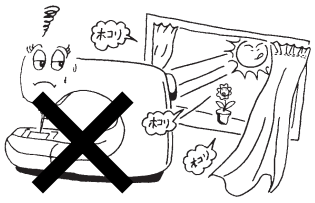


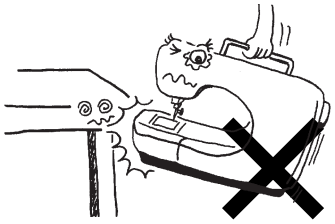
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。

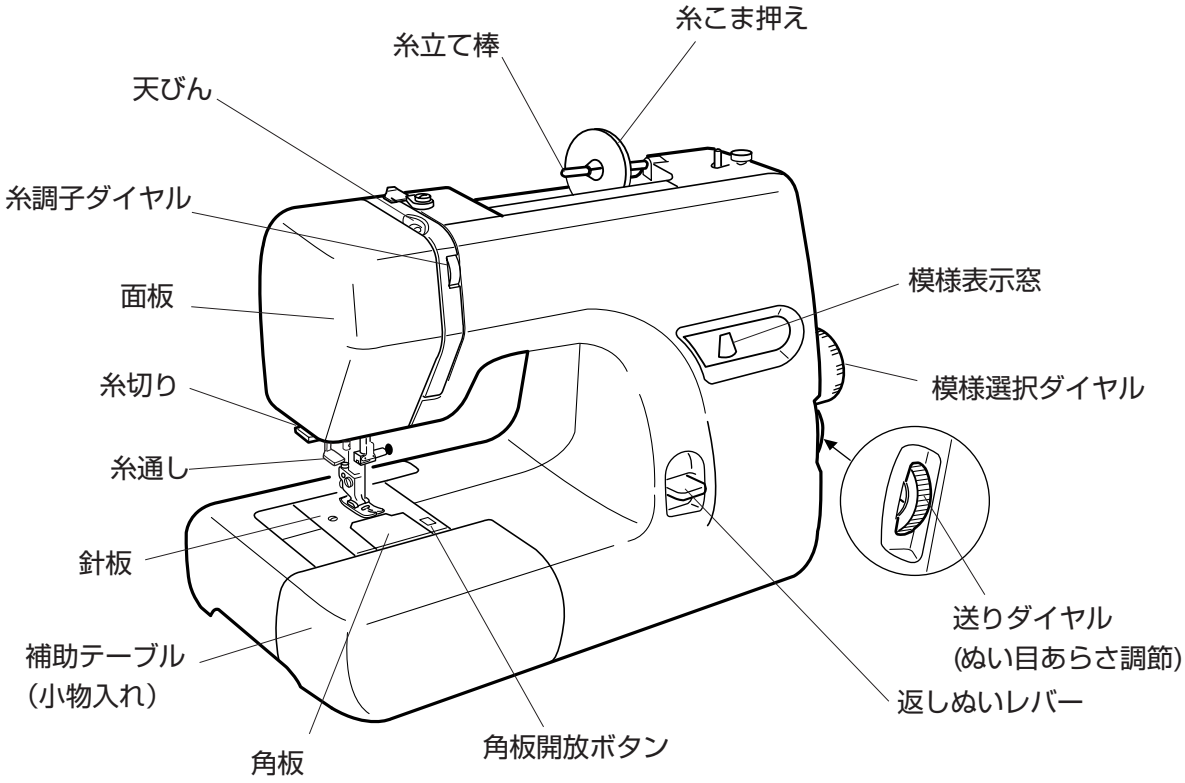


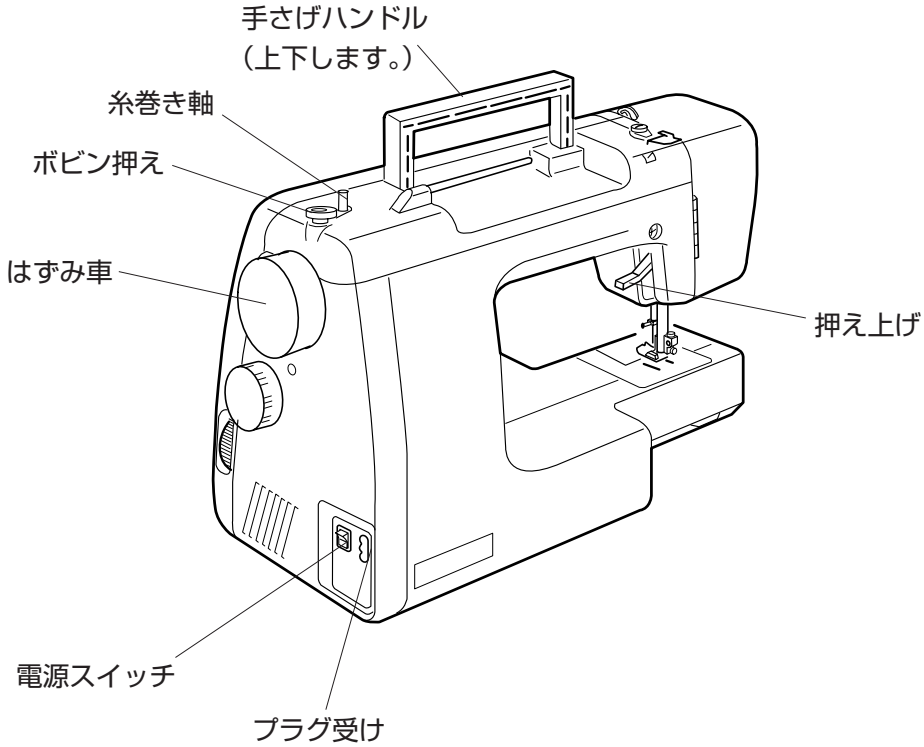


◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（25ページ）により点検・調整を行ってください。

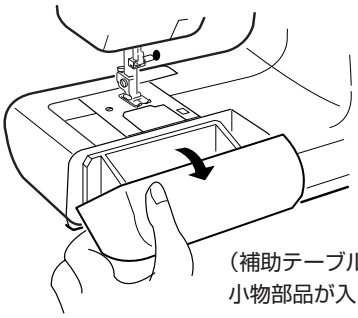
●各部の名まえ





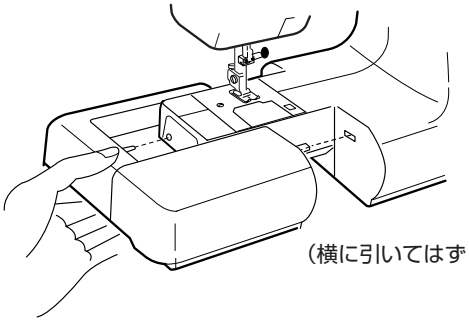
※製品改良等のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

●補助テーブル



（補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。）

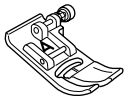
（補助テーブルのはずしかた）



（横に引いてはずします。）

●標準付属品

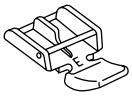
（押えには、記号を表示してあります。）



A　基本押え

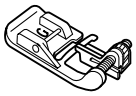
※ A 基本押えは、ミシンについています。

C　裁ち目かがり押え

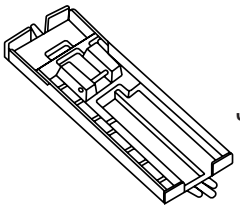


E　ファスナー押え

F　サテン押え

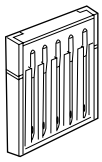


G　くけぬい押え



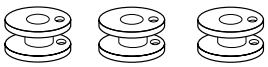
J　ボタンホール押え

キルター
（棒定規）

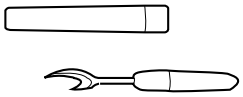


針と針ケース

ドライバー



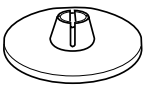
ボビン



シームリッパー

ミシンブラシ

糸こま押え（小）

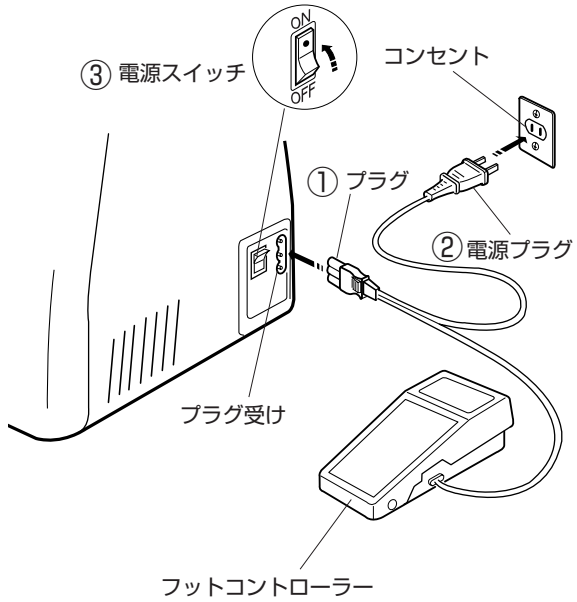


糸こま押え（大）

※糸こま押え（大）はミシンの糸立て棒についています。

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方

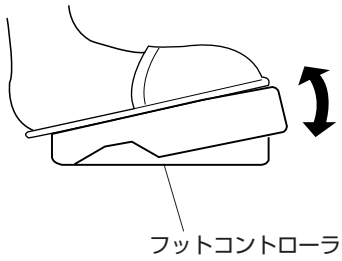


⚠ 警告

・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因になります。
・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり、火災の原因になります。

①電源スイッチを「OFF」（切）にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグをコンセントにさしこみます。
③ 電源スイッチを「ON」（入）にします。

●速さの調節のし方

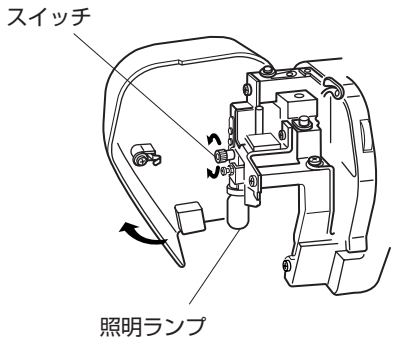


フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

⚠ 注意

・フットコントローラーの上に物を乗せないでください。
けがや故障の原因になります。
・フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
動作不良を起こし、けが、故障の原因になります。

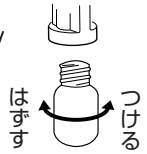
●照明ランプ



⚠ 注意

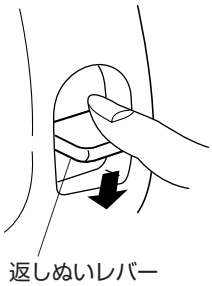
・ランプをとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
感電・けがの原因になります。
・ランプは冷えてからはずしてください。
やけどの原因になります。

《つけ方、消し方》
面板をひらいて、スイッチをまわします。



《照明ランプのとりかえ方》
はずすとき・・・・・・左へまわす
つけるとき・・・・・・右へまわす

●返しぬいレバー

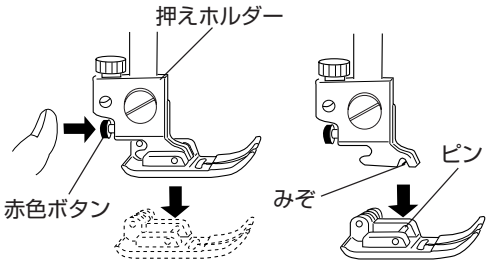


ミシンが動いている状態で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいに戻ります。

●押えのとりかえ方

⚠ 注意

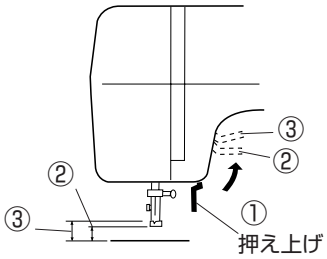
押えのとりかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。
押えは、模様に合ったものをご使用ください。押えが合っていないと、針が押えにあたり針折れしてけがの原因になります。



①押え上げをあげて、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

②押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

●押え上げ

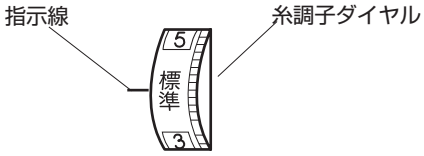


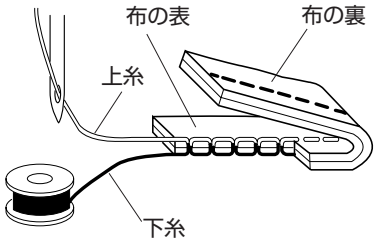
押え上げで、押えの上げ下げをします。
押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

①さげた位置・・・・・・(ぬいのときにはさげておきます。)
②普通にあげた位置・・・(布の取り出しや、押えの交換のときにあげます。)
③さらにあげた位置・・・(補助リフトで、布が入れやすくなります。)

●糸調子の合わせ方

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。
糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。



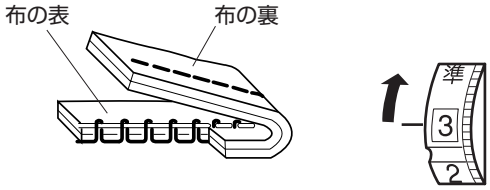


〈バランスのとれた糸調子〉

○直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

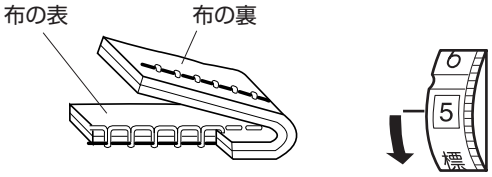
○ジグザクぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。



※下糸が布の表に出ます。

・上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。

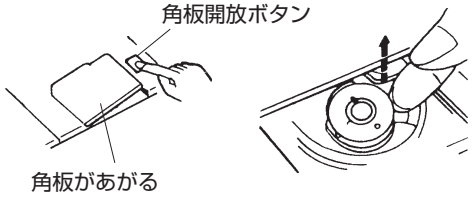


※上糸が布の裏に出ます。

●下糸の準備をしましょう

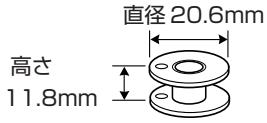
※ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

★ボビンをとり出します

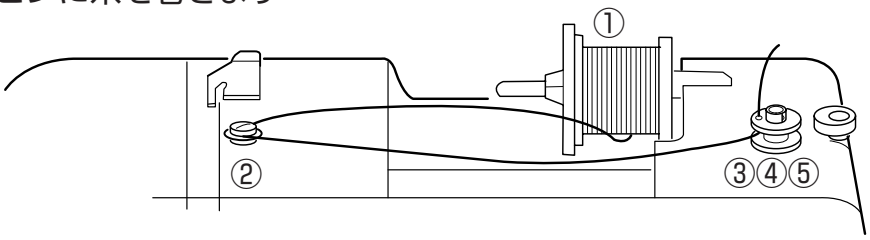


角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

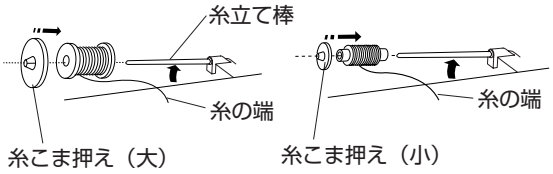
※ボビンは当社専用のプラスチックボビンをおすすめします。（お買い上げの販売店へご相談ください。）



★ボビンに糸を巻きます

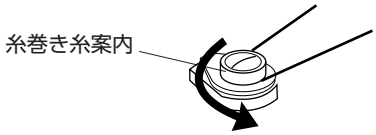


〈普通の糸こまのとき〉　〈小さい糸こまのとき〉

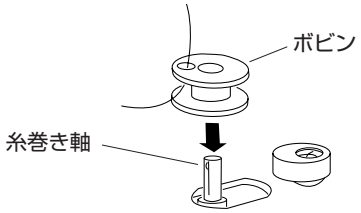


①糸こまをセットします。

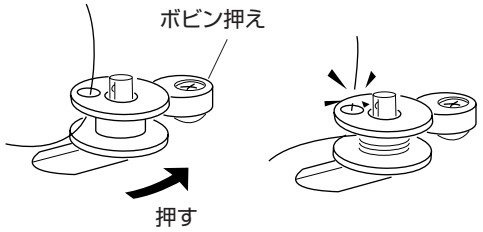
※糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。



②糸巻き糸案内に糸を掛けます。

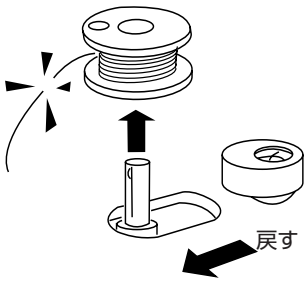


③ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



④ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、フットコントローラーを踏んで巻きはじめます。
糸がボビンに 3 重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

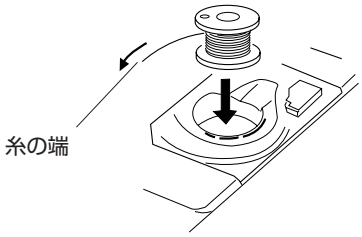


⑤再びフットコントローラーを踏んで巻きはじめます。
巻き終わるとボビンの回転が止まります。
フットコントローラーの踏み込みを止めてボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりボビンをはずして糸を切ります。

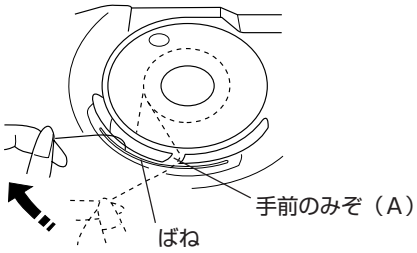
★ボビンをかまにセットします

⚠ 注意

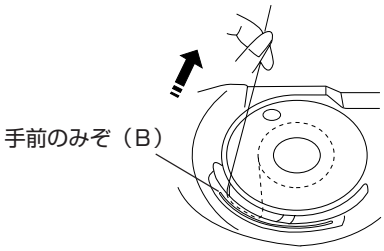
ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。



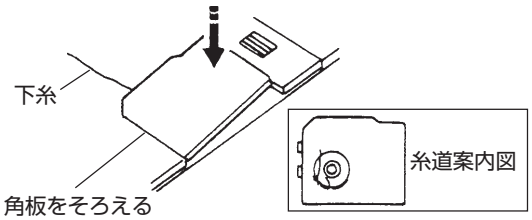
①角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ（A）に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



③糸を手前のみぞ（B）に掛けるようにして向こう側に出します。



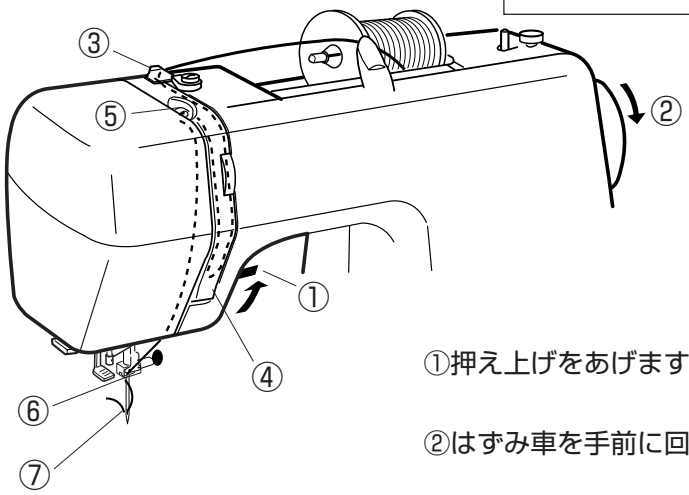
④下糸を１０cmくらい引き出して、角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

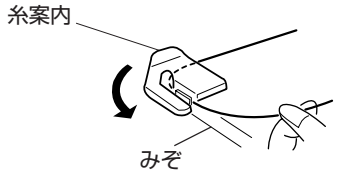
⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。

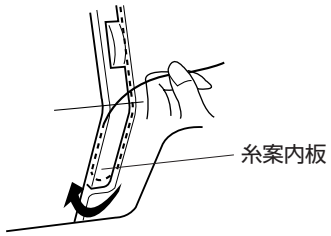


①押え上げをあげます。

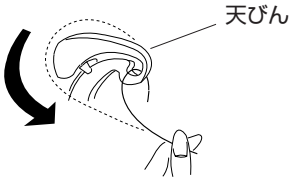
②はずみ車を手前に回し、天びんを一番上にあげます。



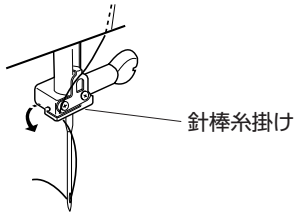
③糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から掛け、みぞにそって手前に糸を引き出します。



④糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。



⑤天びんに右から後ろを回して手前に出し、まっすぐ下におろします。



⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

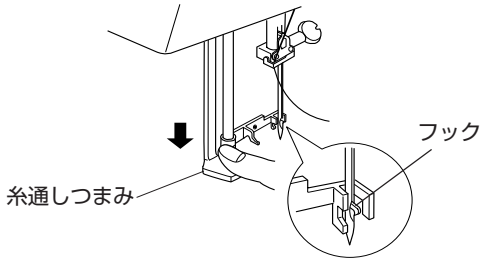
⑦糸通しを使って針に糸を通します。

（糸通しの使い方は、11ページをごらんください。）

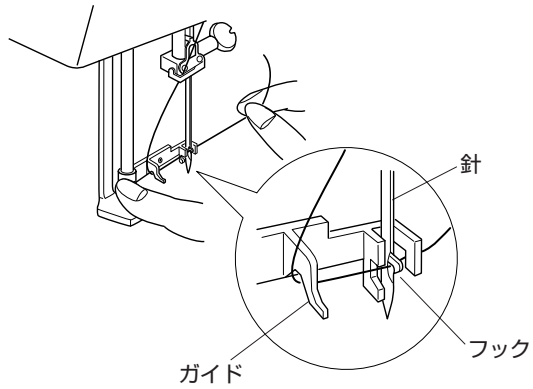
●糸通しの使い方

⚠ 注意

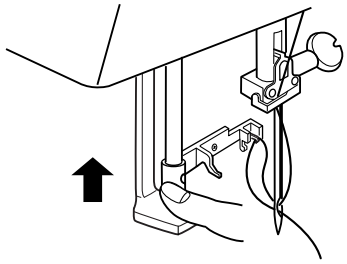
糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



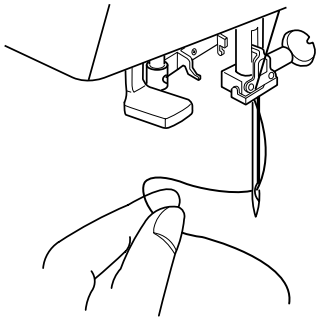
①針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。
フックが針穴に入ります。



②糸を左側からガイドとフックに掛けます。

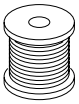


③糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにはなすと、糸の輪が引きあげられます。



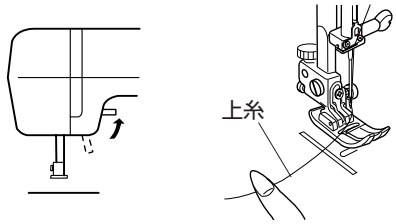
④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

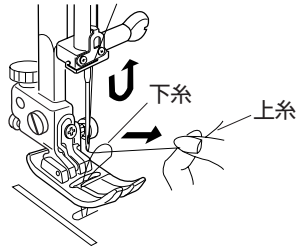


糸は50～90番が使えます。

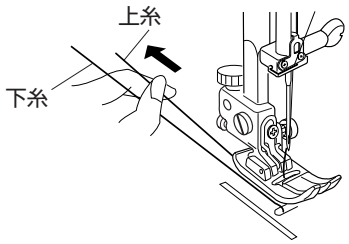
●下糸を引きあげるには



①押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。



②はずみ車を手前に１回転させ、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



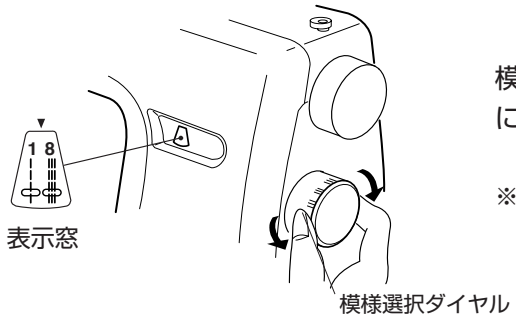
③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル90番	９番～１１番 またはブルー針
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール	絹　糸　50番 綿　糸　60番～80番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	１１番～１４番 またはブルー針
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 化繊糸　40番～50番	14番～16番
		ポリエステル　30番 綿　糸　30番	16番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。
※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、付属のブルー針を使用すると目飛び防止効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

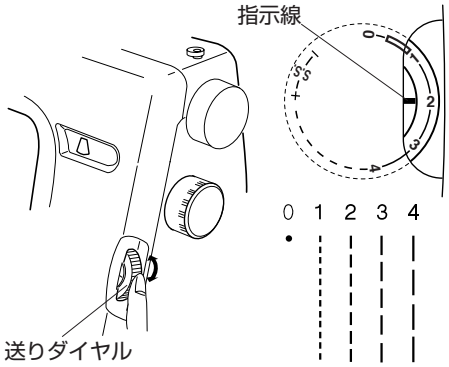
●模様選択ダイヤル



模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に合わせます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針が曲がったり、折れたりする原因になります。

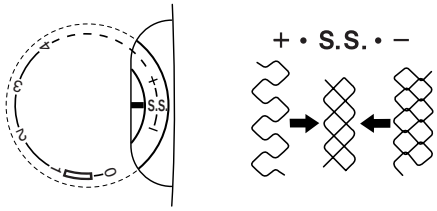
●送りダイヤル（ぬい目あらさ調節）



送りダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。
目盛が大きくなるとぬい目はあらくなります。

模様選択ダイヤルを（　）または、（　）に合わせ、送りダイヤルをまわすと、ぬい目あらさは左図のように変化します。

※ ▭は、ボタンホールのぬい目あらさの調節範囲をしめします。



送りダイヤルをS.S.に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ模様は、スーパー模様になります。

★スーパー模様の形の整え方

模様の形が整わないとき、伸びている場合は、「−」方向に、つまっている場合は「＋」方向に送りダイヤルをまわして調節します。

模様を選ぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

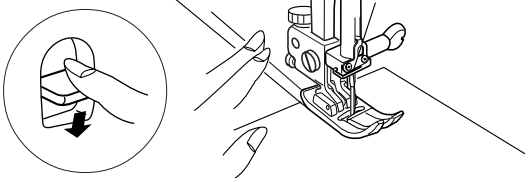
模　様	BH							
送りダイヤル	▭	1.5～4		0.5～4	1～3		0.5～1.5	2～3
スーパー模様								
送りダイヤル		S.S.						

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
	または	A基本押え	1．5～4	2～6

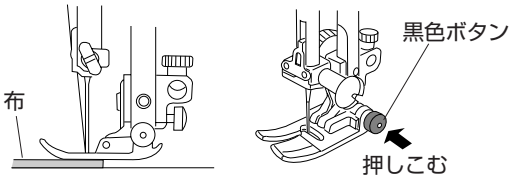
★ぬいはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ぬいはじめます。

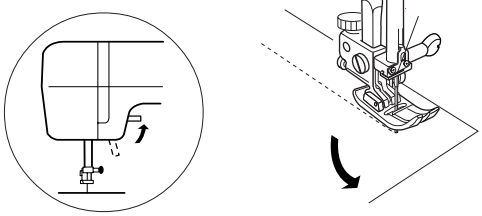
※ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★厚手の布端のぬいはじめ



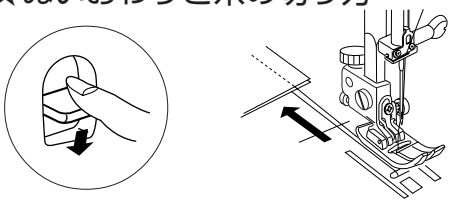
①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。
②ボタンを押したままで押え上げをさげます。
③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

★ぬい方向をかえるには

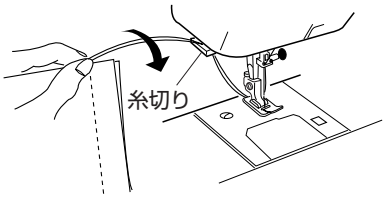


ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわしてぬい方向をかえます。

★ぬいおわりと糸の切り方

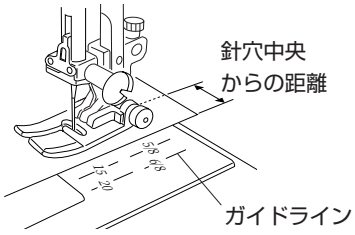


返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用



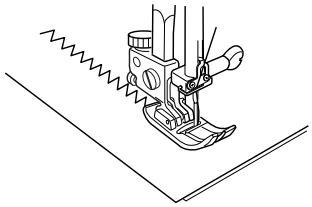
布端を角板及び針板のガイドラインに合わせてぬいます。

※数字は、針穴中央からの距離です。

数　字	15	20	4／8	5／8	6／8
間かく(cm)	1．5	2．0	1．3	1．6	1．9

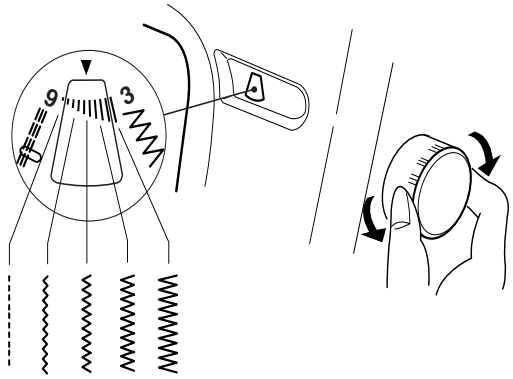
●ジグザグぬい

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0.5～4	2～5	



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

※裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。

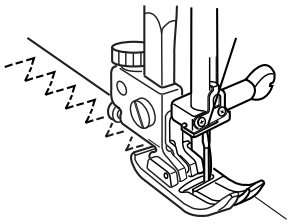


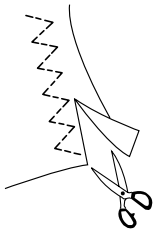
送りダイヤルを「1」に合わせて、模様選択ダイヤルを 間でかえると、ぬい目の幅（ジグザグ）は、図のように変化します。

●かがりぬい

★トリコットぬい裁ち目かがり

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0．5～1．5	標準～6	

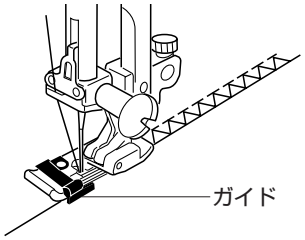




ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬいステッチ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		C裁ち目かがり押え	S.S.	3～7	



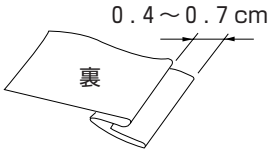
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止めに利用します。

●くけぬい（まつりぬい）

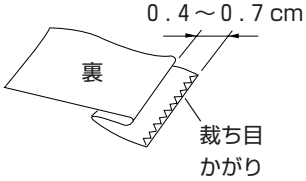
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	Gくけぬい押え	1～3	1～標準	※スカートやワンピースなどの裾のまつりが簡単にできます。

（布の折り方）

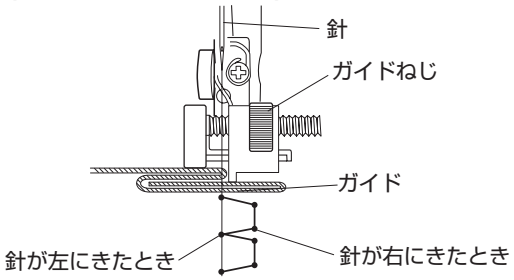
（うすい布、普通の布の場合）



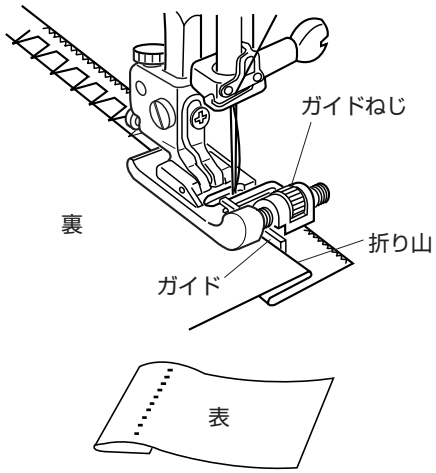
（かたい布、厚い布の場合）



（ガイドの合わせ方）



（ぬい方）

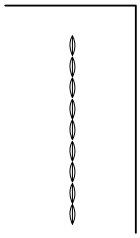


①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬいます。
③ぬいおわったら布をひろげます。
※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

●三重ぬい

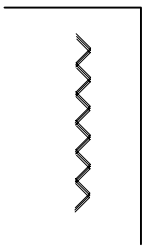
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	A基本押え	S.S.	2～6	※布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

★直線三重ぬい



丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

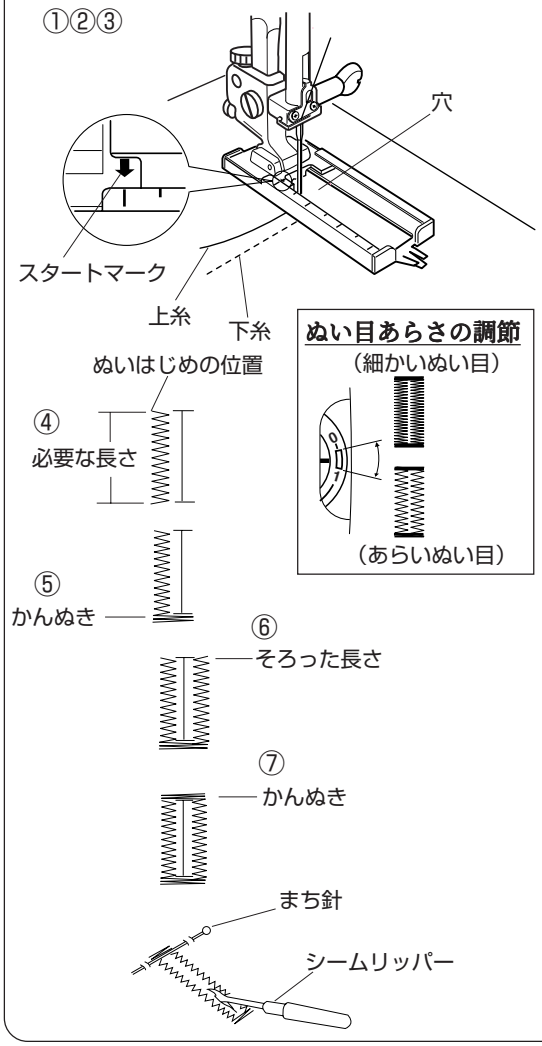
★ジグザグ三重ぬい



飾りぬいに使います。

●ボタンホール

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	1 4 2 3	Jボタンホール押え	0．5～1 （ ▬ の範囲）	1～標準	

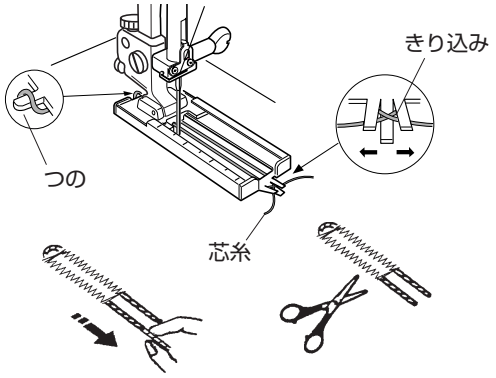


※必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

【ぬい方】

①模様 1 を選びます。
②針と押え上げをあげて押えを取りつけます。
③上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
押えを手前いっぱいまで引き出してスタートマークを合わせます。
④ぬいはじめの位置に針をさして、押えをおろし、ミシンをスタートさせます。必要な長さだけぬい、ミシンを止めます。
⑤模様 4 2 を選び、かんぬきを５針くらいぬい、ミシンを止めます。
⑥模様 3 を選び、左側と同じ長さまでぬい、ミシンを止めます。
⑦模様 4 2 を選び、かんぬきを５針くらいぬいます。
⑧押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を１０cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
⑨かんぬきの内側にまち針をさし渡して、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

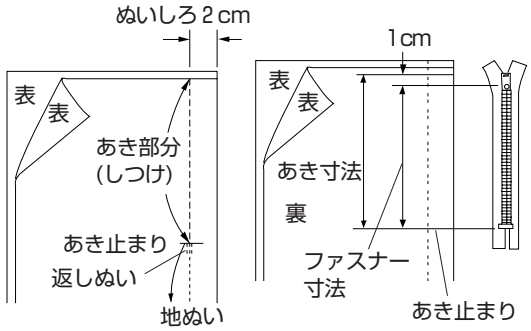
●芯入りボタンホール



※芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。
※芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。
①つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。
②ぬいはじめの位置に針をさし、押え上げをさげてぬいます。
※ぬい方はボタンホールぬい手順と同じです。
③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ファスナーつけ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	※スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。
		Eファスナー押え	1．5～4	標準～6	



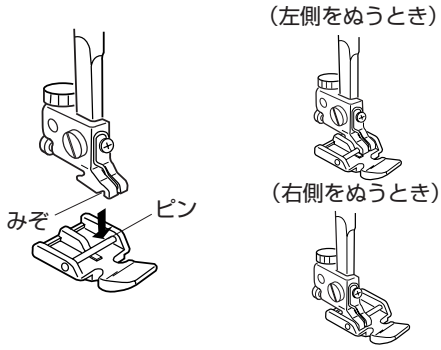
〈準備〉例：左脇あきのぬい方

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをし数針返しぬいをします。

②あき部分は、しつけをしておきます。

※しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」、送りダイヤルを「4」にしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルと送りダイヤルをもとに戻します。

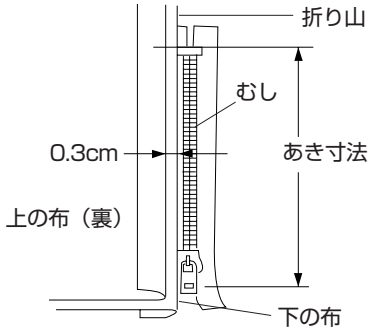
※あき寸法はファスナー寸法に1 cmプラスした寸法です。



〈ファスナー押えのつけ方〉

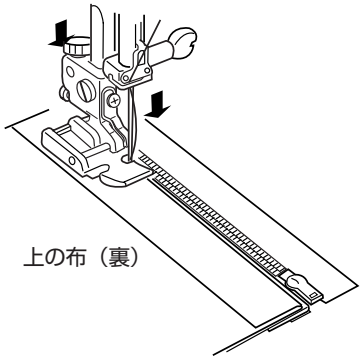
○左側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

○右側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



〈ぬい方〉

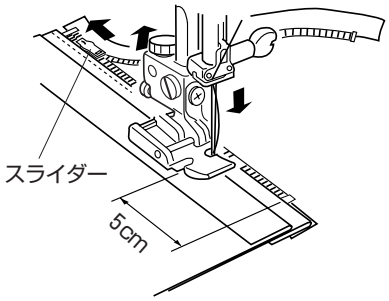
①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



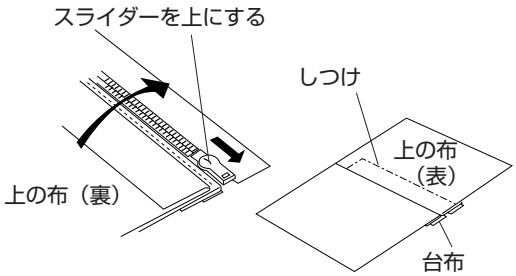
②ファスナー押えの右側のピンを押えホルダーにセットします。

③押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりからぬいます。

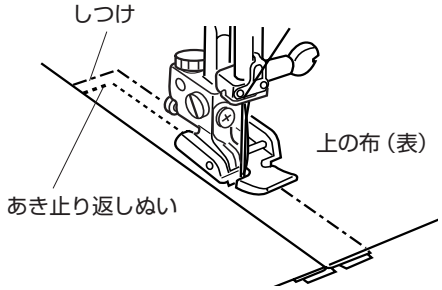
※ぬいはじめのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



④ファスナーの端から5 cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端までぬいます。
※ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

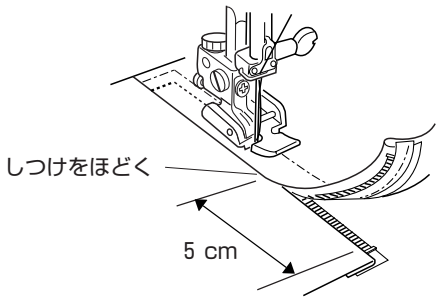


⑤スライダーを上に引きあげて、つまみの金具を上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。
※しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」、送りダイヤルを「4」にしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルと送りダイヤルをもとに戻します。

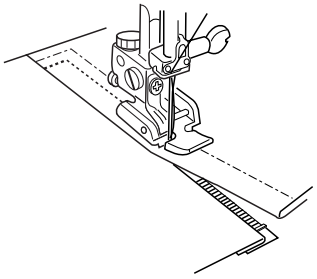


⑥ファスナー押えの左側のピンを押えホルダーにセットします。

⑦上の布のあき止まりを返しぬいして、押えの端にスライダーのきわを当ててぬいます。



⑧ファスナーの上側を5cmくらい残したところで止めて、はずみ車を手前に回し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、<準備>②でぬったしつけ糸をほどきます。

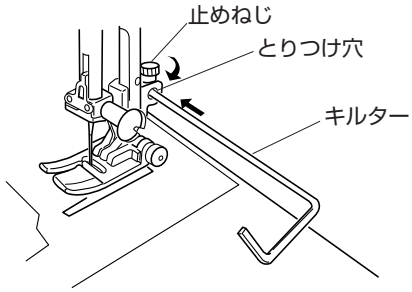


⑨スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら手順⑤でぬったしつけ糸をほどきます。

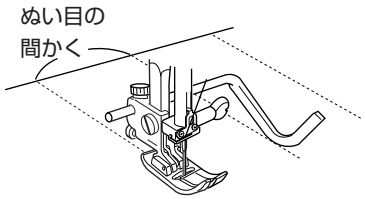
応用ぬいいろいろ

●キルティング

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	A基本押え ＋キルター	1．5～4	3～6	※ぬい目を平行にぬっていく方法で、袋物などの装飾に利用します。



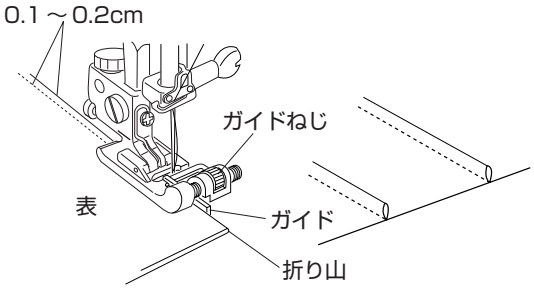
キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、止めねじをしめます。



キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	Gくけぬい押え	1．5～3	2～6	※ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。

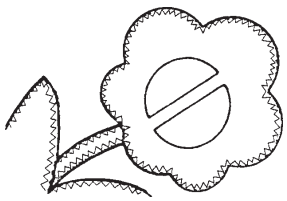


①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1～0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。

●アップリケ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0．5～1	1～標準	※アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。また、両面接着芯を使うと便利です。

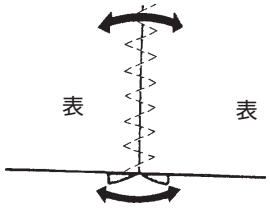


アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

※カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前に回し、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●パッチワーク

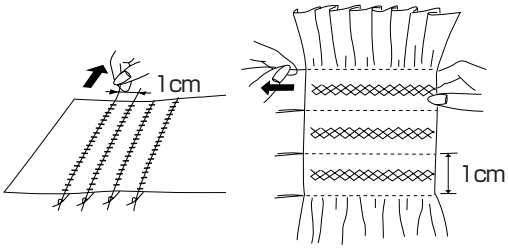
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0．5～1．5	1～標準	



布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●スモッキング

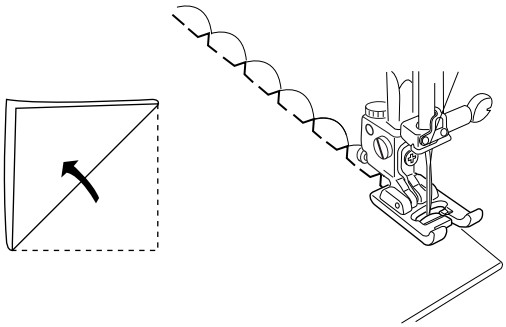
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	S.S.	標準～6	



①糸調子ダイヤルを1～3にして、ぬい目のあらさ0．3～0．4cmの直線ぬいを、1cm間かくで数本ぬいます。
※ぬいおわったら糸調子ダイヤルを「標準」に戻します。
②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
③直線ぬいの糸と糸の間に模様ぬいをしてから、直線ぬいの糸を抜きとります。

●シェルタック

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	2～3	6～8	※糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。



①うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。
はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにしてぬいます。

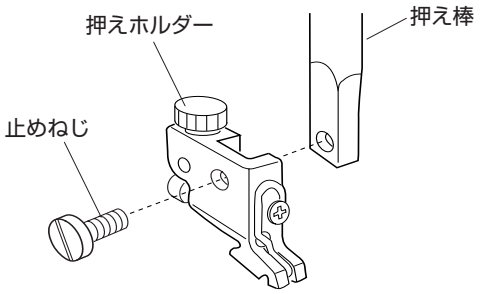
②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

押えホルダー・針のとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方

⚠ 注意

押えホルダーをはずすとき、つけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

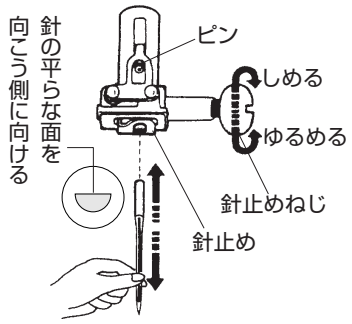


〈はずし方〉
押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを左にまわしてはずします。
〈つけ方〉
押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ止めねじをさしこみ、右にまわしてしっかりつけます。

●針のとりかえ方

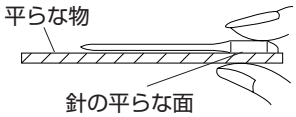
⚠ 注意

針をとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因になります。



〈はずし方〉
針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。
〈つけ方〉
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

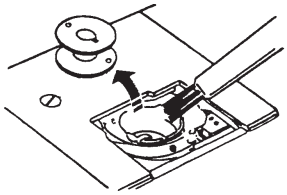
ミシンのお手入れと調整

●ミシンのお手入れ

⚠ 注意

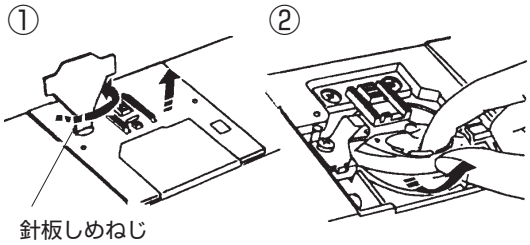
・ミシンのお手入れをするときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因になります。
・市販のスプレー式潤滑油は使用しないでください。火災の原因になります。

★かまの掃除　※針と押えは、とりはずしてお手入れをしてください。



①角板をはずし、ボビンをとり出して糸くずやほこりを、ミシンブラシで掃除します。

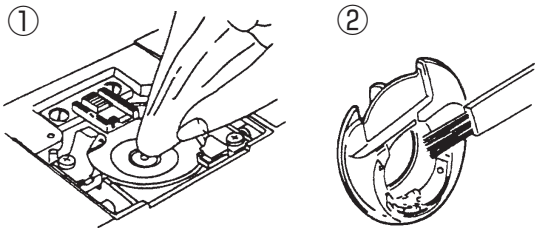
★かまの分解



①針板しめねじをはずし、針板をはずします。

②ボビンをとり出し内がまの手前を上に引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除

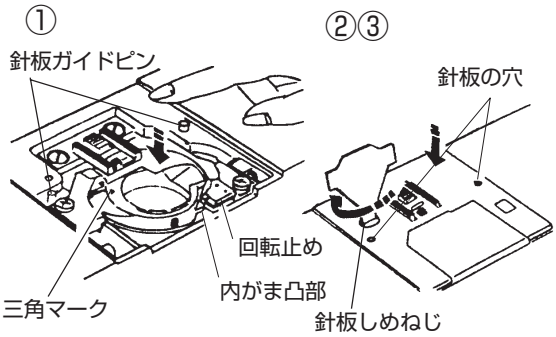


①送り歯のごみを、ミシンブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

②内がまを、ミシンブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

※ミシンブラシで掃除しにくい糸くずやほこりは、掃除機などで吸とってください。

★かまの組つけ



①内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

②ボビンを入れ 2 か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

③針板しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬいはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 7ページ参照 23ページ参照 23ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 12ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	9ページ参照 24ページ参照 ボビンを交換する
針が折れる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	23ページ参照 23ページ参照 14ページ参照 12ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	23ページ参照 12ページ参照 12ページ参照 10ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 ※特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	7ページ参照 9、10ページ参照 12ページ参照 ぬい目を細かくする
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。	24ページ参照 ぬい目をあらくする
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	7ページ参照 12ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている）	5ページ参照 24ページ参照 8、9ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	18ページ参照 18ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	24ページ参照 24ページ参照

別売品のご紹介

1．直線押え ..... (NO.823801015)

●直線ぬい

〈セットのめやす〉

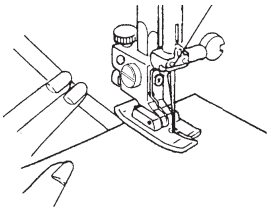
模様選択ダイヤル .....

糸調子ダイヤル ..... 2～6

送りダイヤル ..... 1.5~4

押え .....

H直線押え



《ぬい方》
糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

2．三つ巻き押え ..... (NO.820809014)

●三つ巻きぬい

〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル .....

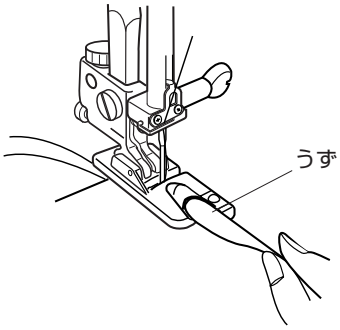
糸調子ダイヤル ..... 3～6

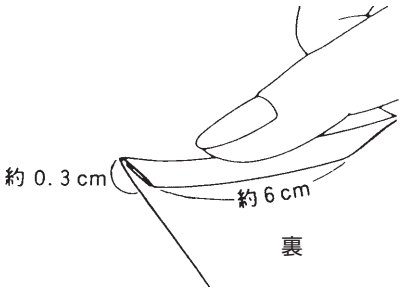
送りダイヤル ..... 1.5~4

押え .....

D三つ巻き押え

《ぬい方》
①布端の長さ約6 cmを、約0.3cmの幅で2度折りまげます。
②ぬいはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2 cmぬいます。
④はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。





3．イーブンフット..... (NO.214870008)

押えの使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。

♥ MEMO ♥

♥ MEMO ♥

仕　　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	60W（ランプ 12W）
外形寸法	幅 42cm ×奥行 17cm ×高さ 30cm
質量	8.0kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 820 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1） 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2） 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3） お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4） お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5） 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室　TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）

042-661-2600

受付…平日 9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00

（土・日・祝日・年末年始を除く）

メールでのお問い合わせは、ホームページ http://www.janome.co.jp

問合せフォームをご利用ください。

755-800-386